

江戸川大学国立公園研究所から

執筆担当・中島慶二、高橋恵美

今号から、国立公園雑誌に毎回国立公園研究所からのお知らせや雑文を寄稿することになった。今回はまず、本研究所について紹介することとした。

江戸川大学とは

江戸川大学は一九九〇（平成二）年四月に千葉県流山市に開校した比較的新しい大学である。ただし学園全体の沿革は古く、学校法人江戸川学園の母体となった城東高等家政女学校が開校したのは、一九三一（昭和六）年四月、その後江戸川女子中・高校、取手小・中・高、福祉専門学校、保育園を開設した総合学園となった。

本大学は、二〇一八年現在では二学部六学科を擁し、「人間陶冶」を教育理念に掲げて学生一人一人の個性を尊重した少人数教育を実

施し、教員と学生との距離が近いことを特色としている。

本学現代社会学科では、一九九七（平成九）年の学科開設以来、国内外の環境問題の研究に取り組んできた。特に「国立公園論」をはじめとする自然保護分野の教育に力を入れ、その結果、学生たちは入学時から国立公園や自然保護のボランティア活動や環境国際協力にも参加し、卒業後はその分野の就職を目指す学生が多くなり、現在までに四〇名以上の学生が国立公園や世界遺産の分野で活躍している。

国立公園協会から寄贈

そのような折、一九二九（昭和四）年に設立された財団法人国立公園協会が、八三年の歴史を刻んで解散した。その業務や財産は、

環境省、一般財団法人自然公園財団等、国立公園や保護地域研究に関係する機関に引き継がれたのだが、江戸川大学が国立公園研究と教育に力を注いでいるということから、本学現代社会学科に対して、協会が所蔵していた書籍や関連資料等の多くを寄贈していただいた。これを機に、二〇一三（平成二五）年四月、本学内に国立公園研究所を設立し、国立公園に関する研究の推進と、学生に対する教育の充実を図ることとしたのである。

今回は、旧国立公園協会所蔵書籍を中心とした、本研究所所蔵資料のデータベースについて紹介する。その資料は個人から、そして他団体から贈られたものも含まれている。ご寄贈いただいた環境省の宇賀神知則様、宇野佐様、小野寺浩様、児玉武彦様、櫻井正昭様、鹿野久男様、島田直幸様、高西次男様、またアメリカ国立公園局、台湾内政部営建署には、この場をお借りして御礼を申し上げます。

データベース化作業

データベースの所蔵冊数は和書

が約一、〇〇〇冊、洋書が八〇〇冊にのぼる。寄贈された資料の中には、現在では入手不可能な古書が多数あり、そのような古いものについては、他図書館等からの目録情報が見つからないことが多いため、現物の奥付、表紙等に記載されている情報を参考にしながらデータを入力した。

さらに詳細な情報を付け加えるため利用したのは、Cinii Books、国立国会図書館OPAC、Webcat Plus、各大学図書館OPAC、WORLDCAI等、国内外の蔵書検索サイト、各国のAmazon、Google Books、該当資料の出版元団体のHP等である。各サイトにアクセスしながら、現物と書誌情報が一致するかを確認した上で、判明した追加の書誌情報を記し、加筆と修正を繰り返しながら、ZDCC（日本十進分類法）に基づく請求記号を付与した。請求記号とは一般的に、図書館資料の背表紙に貼付するラベルに記載される数字他の記号のことで、それによって資料が識別される。

本研究所の寄贈資料の特徴は、大部分が国立公園や保護地域等に特化した分野の資料であるため、

同じ分類番号の書籍がかなりの割合を占めることである。そのため、違う資料なのにもかかわらず同一の請求記号が付与される場合があり、重複が生じてしまった。それを避けるための対策として、他所蔵館のデータを参照しながら、入力した書誌情報の内容を変更する等の差別化を図り、書架に並んだときに利用者が混乱しないように注意した。

所蔵の工夫と補完購入

和洋古書や洋雑誌のバックナンバーは、経年劣化が激しいものも散見されたので、特に洋雑誌については、スキャンしてPDFデータを保存することを計画している。また、団体刊行物、機関報告書は公式HPで本文へのアクセスが可能なもの、加えて洋古書には、Google BooksやPDFファイルが閲覧できるものがあることを確認したので、今後はリンク先情報を追加する作業を行いたい。

研究所の書架の狭隘化のため、現時点で寄贈資料の受け入れや、新規資料を継続して購入し続けるとしても、すべてを所蔵し続ける

ことが困難なのが目下の問題点であり、先述した既存の資料の電子ファイル化については、書架の狭隘化対策でもある。

研究者間での利用促進が著しいオンラインジャーナルで、バックナンバーから最新号までが閲覧できるものもあるが、利用には大学からの法人契約を必要とすること、関連文献を網羅するには少なくとも予算が必要になるため、今の時点でその方法は現実的とは言えない。

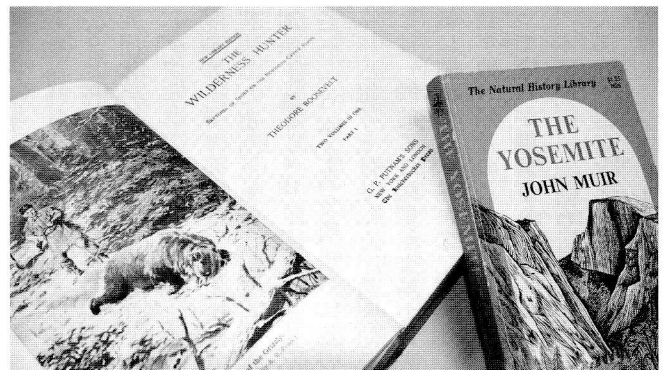
寄贈されてきた本の中で重複があるものは廃棄や譲渡を進めて、収集のみを目的とはせずに、取捨選択していく方法を取りながら、現在の所蔵傾向を詳しく分析した上で、層が薄いジャンルの資料は、今後の寄贈本から選択することで補完していきたい。

さらに、国立公園・保護地域関連で名著・良書として評判の高く、現在は所蔵がないものを新たに購入し、最新の出版物や関連雑誌も揃える等、今後の蔵書構築において、本研究所の専門性をより重視した選書を目指していく。

活用のお願

資料の閲覧や関連研究への情報提供・交流の場となるよう、現在、長期休業期以外の毎週水曜日には研究所を開室している。来学の上、受付で申し込みをいただくと、どなたでも入室が可能である。また、現在準備中のウェブサイトに於いて、本研究所所蔵資料のデータベースを公開する予定である。

ぜひご利用いただきたいのは、環境省、地方公共団体、関連団体等の国立公園業務担当者、国立公園・保護地域の関連研究者、パークボランティア、国立公園をフィールドとするインタープリターやネイチャーガイド、江戸川大学オープンカレッジの国立公園シリーズ講座の受講生、その他国立公園に関心のある個人、団体等、幅広い方々である。また、旧国立公園協会の関係者をはじめ、本研究所の立ち上げから関わってくださった多くの方々のご厚意に因應するためにも、少しずつではあるがこのコレクションを充実させて、皆様のお役に立ちたいと望んでいる。



ジョン・ミュアとセオドア・ルーズベルトの著書

中島 慶二 ● なかじま けいじ
一九八四年環境庁入庁、日光、尾瀬、阿蘇、大雪山などの現地管理業務、長崎県庁、那覇事務所長、復興庁、野生生物課長など。退官後二〇一七年より江戸川大学国立公園研究所研究員。

高橋 恵美 ● たかはし えみ
江戸川大学学術情報課にて、委託図書館の管理運営業務を担当。二〇一四年度より国立公園研究所スタッフとしてデータベース構築、資料整理などに携わる。